

文科省の信濃参事官が資料 27-2(海洋地球観測探査システム)を 13 分弱で説明した後、20 分を超える質疑応答があった。(海洋地球観測探査システムの内、衛星が担当する部分のシステム開発進捗状況は宇宙開発委員会が評価する事になっており、部会などには掛けずに宇宙開発委員による議論が行われ、其の結果を事務局がまとめたと言う説明であった。此の「衛星観測監視システム」は具体的には GCOM-C、GCOM-W、ALOS 等の衛星群から構成されており、それら各システムの開発進捗状況は推進部会で評価されている。)(池上委員が科学技術の進展を考えれば、計画は 100%見直しが必要と言う様な主張をし、青江委員が「相当突っ込んだ議論を行って検討した結果であり、その改定が必要であると言うならやらなければならないが、果たしてそれだけの根拠のあるご意見か」と言う主旨の反論をし、「不毛の議論」に突入しようとした処で打切られた。)

松尾委員長:只今ご紹介頂きましたのが、当委員会としての見解の案で御座います。ご質問等御座いますか。宜しゅう御座いますか? はい、どうぞ。

青江:敢えてと言いましょかね、此の前、言ってみれば、此の衛星監視システムとを包括的なプロジェクトとしてスタートさせて2年なんですよネ。此れだけ大きなものを、2年後に何を見ると言うんだと言いましょかね、実は一寸わからなかつ

たところが有るんですけどネ。その一、こんな長期に亘って着実にステップ・バイ・ステップで事を進めて居る大きなものを、2年と云う形の時期に何を見るのかと。もう一点しかないんじゃないかと。大きな意義だとか流れて云うのはもう確定してる訳ですからね。そしたら、夫々一個一個のプロジェクトが本当に計画通りキチンと、所謂、トラブルと言うか、予測された様な事無く円滑に進んで居るか²と。進捗状況、其れ位しかないのかナと。本当は、一寸何処でしたかネエ、プロジェクト管理につきましては、所謂、中間評価の仕組みを相当入れ替えて、それで JAXA 自身も経営トップまでの目を入れるようにして、開発前の着手の段階で、経営のアレを随分濃密に入れ、且つ四半期毎のアレも入れ、そして其の状況はまあ、適宜、宇宙開発委員会も聞き、それで必要な時には直ぐに中間評価を立ち上げると。此の仕組でまあ、今ん処、あんまりこう、其れをしなきゃいかん様な事態には立ち至ってないんですよネ。ホントは其れでもう良いと言いましょかね、そう云う事ですから、其れで一言で済むとでも言いましょかね、と云う風な事なのかナアとも思ったんですけどネエ。

松尾委員長:まあ、だから当初の目論見その他は、再度舐めた様な処がありますネ、此れは、包括的に復習的な処がありま

であるか否かを評価するのではないか。後者は、「問題が発生して計画の修正を図る必要」を内在している。

² 全く其の通りで、しかも計画的に推進部会、JAXA の経営者会議等で、定期的に監視されている。此れを報告すれば良い。

¹ 「海洋地球観測探査システム」が言う「中間評価」を、宇宙開発委員会での「中間評価」の定義で見えてしまっていないか。前者は一般的な定義であり、其の進捗状況を調査確認して、順調な進捗

すけど、まあ、本質部分は今仰った様なとこなのかも知れませんが、ただまあ、全部にこれを付けて、形を整えるのは、其れ程まあ腹が立つ話でもない様な気が致しますけど。

青江: まあ。

松尾委員長: 宜しゅう御座いますか。

青江: 結構で御座います。

池上: ですから此れはあの、過去の評価についてはですネ、まあ、こんな様なもんだと了解するんですが、寧ろあの、洞爺湖サミットもそうなんです、此の一年間で特に地球環境に対する関心がガラッと変わって来た訳ですよね。ですから寧ろ今後どうするかって云う様な処をですネ、是非、確り考えて欲しいと。で、特に、次は IPCC は確か 2012 年ですから、其れに向かって色々データを取って云う事になって云う風に思いますし、それからデータについても一過性のデータじゃなく³て、特にあの、其のデータが産業とか色々な処に影響を及ぼすと云う事ですネ、いい加減なデータで無く出来るだけ信頼性の高いデータを積んでく必要

³ GCOM-C と GCOM-W は其の様な計画になっている。この後青江委員がお話する「地球観測の基本戦略」など、基本方針を熟読し、各衛星計画がそれに従って進められようとしている事を確認してから発言して頂きたい。国際政治の世界で地球温暖化対策の重要性に関する議論が高まっている事は、寧ろ計画立案にあたっての基本的考え方が受け入れられて来ていると評価すべきではないだろうか。情緒に流された、事実の確認を怠った議論は、混乱を招くだけなのではないか。

があるだろうと。そうなりますとデータの寧ろ継続性って言うんですかそう云ったものが非常に重要になる。ですから此れ、世の中で議論されてるのが例えば 2050 年とかですネ、あれは 2025 年でしたっけ、時間スケールは今迄我々考えてた話と随分違って来てる様な気がするんですよ。矢張り、そう云う、其れに向けて今後どうするかって云う様な事を、あの一、此れをまあベースにすると思うんですが、確りやって頂きたいと云うのが希望です。

松尾委員長: どうですか。

青江: ややネエ。...「確り考えて頂きたい。」って云うんじゃ無くって、それこそ宇宙開発委員会が衛星観測システム、此れはネ、基本的には此処にも有ります通りネ、2 年程前になりま⁴すけどネ、衛星のトータルの計画を纏めた⁴んですよ。まあ、勿論其の一番の基本的なものの考え方ってのは、CSPT の分野別戦略と、地球観測の基本戦略でしたか何か、あれを踏まえて、ワーキンググループがあって、そして其の流れを受けて、衛星側としては斯う云う衛星計画をと言って作り上げると訳ですネ。其れに沿って今一個一個が動いとる訳ですネ。ネエ。ですから其れを、今仰られた様により長期的に見て、何か少しく、どう言いますか、今の儘で其の儘ズーッと延長させて行ったんじゃいかんと云う風な新しい要素が有るのであれば、其処の大元たるですネ、「我が国

⁴ 2 年前に定めた構想に対する自信があり、現時点で見直しが必要になる様な軟なものでは無いと思っていらっしゃる。大変結構ではないか。

の地球観測に於ける衛星開発計画及びデータ利用の進め方について」と云う、平成11年6月のあの全体構想を、どう言いましょうか、もう一回レビューして変えなきゃいかんのですよ。これは宇宙開発委員会自身の責任なんですよ。我々の問題なんですよ。

池上: な、な、ど、どう云う事ですか其れ？

青江: いえ、「考えて欲しい」と言うんじゃない無くて。

池上: ああ、あの、宇宙…。あ、勿論結構なんです。で、私も此の延長で行くとはとても思いません⁵。で、多分相当見直しが掛って来るだろうと。例えばあの、GEOSS にしたって此れ、システム・オブ・システムズで、そのシステムズと云う範囲はですネ、従来よりも数が増えてる訳ですよネ。で、多分其れを考えた上で、やってかなければいけないと云う事で…。此処で答えを出せと、斯う云う事ですか？

青江: うん、そうじゃなくて、人に考えて下さいと云うのは、人様に向かってじゃないですか。

池上: いや、そう云う心算じゃなくて。ああ、そう云う心算では無く、唯ですネ、宇宙開発委員会のカバーするのは極一部

⁵ くどくなるが、情緒的に判断してはいけない。GCOM がデータ収集を始め、ALOS などを利用しながら開発したアルゴリズムで温暖化ガス等の評価を行い、グラウンドトゥールズと対比した考察を進める中で、計画の見直しが必要になれば再度審議すれば良い。1年で技術が陳腐化する自動車や家電の世界とは異なり、宇宙では5年から10年で技術が陳腐化する事を、もう理解できても良いのではないか。

んなるかも知れませんね。

青江: いやだけど、衛星、衛星観測計画とでも言いましょうかネ。其れは宇宙開発委員会が考える事です。

池上: じゃあ、何か作りますか？へっへ。

青江: 作りますか？ だから、あのネ、ええと先ずは、我が国の地球観測に於ける衛星開発計画及びデータ利用の進め方についてと云う、其の衛星をどう開発し配備をして、データをどう取って行って、どう利用して行くのかと云う全体構想はですネ、此の時作った訳ですよ、宇宙開発委員会が。だから、此れが時代遅れだと言うんでしたら、其れは直さなきゃいかん⁶でしょうネ。

池上: そうですネ。いや、あの、そうなるでしょう。

青江: だから、其処は、ええと、あの一、其処がそうなのかどうかと云う事なんですよ。

池上: あ、あ、でも此れは過去の評価ですよネ、中間評価をやれて言ってるのは。

松尾委員長: だから、此れにつきましてはネ、

池上: 此れは取敢えずは良いでしょうと。

松尾委員長: 此方をクローズしますと、此れについては、取組状況とか反映状況とか仰ってる訳ですから、此れは此れで閉じてると思います。ただ、仰った様に、全体としての見直しが必要だと云う処を強く仰るんだったら一寸議論をする必

⁶ 時代遅れではないと考えるからこそその発言であろう。池上委員は、根拠無しに其れに反発しているとは見えません。

要がある。

池上:ですからネ、其の通りで、一寸やっぱり、今、科学的なデータがですネ、我々の生活に直接関係する様になって来てる訳ですよネ。

青江:なって来てるって、もう随分前からです。

池上:いや、そんな事は無い。極最近...特に地球環境についてはですネ、ミスリードする可能性もある⁷訳ですよ、その我々のデータ、例えば CO₂ の問題にしても、温暖化と間にどう云う関係があるかって云う事について未だ良く分かっていないとかですネ、等々、色んな此処の問題について色々有る訳ですよネ。で、あの、要するに此れはどちらかと云うと研究開発と云う視点でやってるんだけど、研究開発自体の或る意味では社会的な責任って云うのはこれから益々重くなって来る、今迄以上にですネ。特に地球環境の様に元へ戻ることが出来ない様な事について非常に重要になって来るって云う風に思って居りましてね、で、其処はちゃんとやってきましょうって云う決意表明でも構わないんですけど、要するに、コーポレート・ソーシャル・レスポン

⁷ 地球観測に携わる誰もが感じている事で、映像を得る事は出来てもグラウンドトゥールズとの対比を繰り返し、確信を持つ迄には長い経験が必要なのである。また「CO₂ や降水量を把握する」と約束しているのではなく、其の為の研究を進める事を提言しているのである。ミスリードのリスクは承知していると思う。地球上には足を踏込めない処が沢山残っており、衛星を利用する事以外に、地球上全ての観測が出来そうな手段が無いのである。

シビリティって云うのが有るんだけど、寧ろ最近はその、サイエンス・ソーシャル・レスポンシビリティって云うのが、昔以上に、前以上に大きくなって来てる様な感じを受けてるんです。

青江:あの、この、ええと、やった時のものの考え方と云うのはネ、此の衛星データは何処へ繋げて行くのかって言ったら、先ず第一義的にはですネ、リサーチコミュニティ、此処に持って行かなきゃいかんですよネエと、そして、其の上で政策立案当事者に繋げて行くんだと云うのははっきり意識してやってんですよ。

池上:意識するのは結構なんですけど、皆意識してやってるんですが、

青江:で、其のメカニズムの上に立って、此のデータが居ると云うのが出て来て、そして此の衛星が要ると云うのが出て来て居ると。

(暫く無言)

池上:あの、一寸論点が良く理解出来ないんですが、あの、

青江:だから、仰られたソーシャル何とかかんとか云う事の上に立って此の衛星開発計画と云うのが出来あがったと云う事なんですよ。

池上:いや、私はそう思いません。

青江:いや、それだったらね、それだったら何処がどう違うのかと云う事を指摘して貰わないと、あれ宇宙開発委員会で決めた訳ですがネ、あれが何かこう、

池上:いや、過去決めた事を云々なんて云う事、僕は議論する気

は全く無いんですよ。例えば、それこそ今回の、まあ、此れは色々新聞等に色々書いて居りますし、で、地球環境については最近色々言われてる⁸訳ですよネ、或いは環境省の方も色々出してる訳ですよ。で、例えば温暖化の話なんかについてもネ、此れは JEMSTEC が出してる訳ですよネ。で、従来よりは我々が関連する分野って、非常に広がってる様に思う訳ですよネ。で、其処をちゃんとやってきましょうよって言ってるだけの話であって、何時もの様に過去言ってる事に間違ってるって云う様な事は私は言って居りません。僕、余り過去は関心無いって事もあります⁹よネ。

青江:あのネ、先へ向けてる技術がネ、何処をどう直すと言いましょか、あそこが若干時代遅れなら時代遅れ、此処は斯うしなきゃ、

池上:いや、そりゃもう、上げろって、幾らだって上げ。例えばね、データの継続性です。データの継続性例えば CO₂ の問題についても、例の南極の観測からズーッと継続してデータ

⁸ GCOM 等の衛星計画を進め、其の時に使うアルゴリズムの研究開発を ALOS などのデータを利用しながら進めているのは、世の中の全ての人に地球環境の変化を示したくて進めている事で、地球環境に関する発言が増えたのはそれら努力の成果の一部である。思惑通りに進んでいる計画を見直す根拠に置き換える詭弁である。

⁹ 将来に向けた決断をする為に歴史を分析するのであり、「過去は関心無い」と言ったら世界の歴史家を冒瀆する事になる。不謹慎な発言である。

が上がったんで今取れてる訳でしょ。¹⁰ですからネ、個々に挙げてったら此れ、色々有ると思う¹¹んですよ。此れからチェックして。今まで余り気が付かなかったんだけど、チェックして行かなきゃいけない様な話って、拳がってる訳ですよネ。で、其処を見ながら、あのー、衛星として何が出来るかって云う事をもう一度考える必要があるって云う風に思っていると。色んなところで、あの、個別に挙げろったら幾らでも挙げますけどネ、えへ。今言ってるのは別にその、過去が悪いとかって議論してる訳じゃないんですよ。要するに、少なくとも、もう一つ言えば、此の計画を立てた時点と今はネ、違うんだって事なんですよ。で、此処にも書いてありますけれど、あのー、世の中が変わって来たものに対してどれだけ対応が付いてますかって云う様な所ありますよネ。あ、「科学技術の急速な進展や、社会や経済や経済の状況変化のプロジェクトへの反映状況」と云う処、で、此れは今迄はですネ、必ずしも十分反映されてるとは僕は思わない訳ですよ。其れは何故かって云うと、未だ、確かに仰った様に2年位の話ですネ。此れはこれからどうタイムリーに対応

¹⁰ 地球観測衛星で扱う波長域が広がり、空間分解能が向上して来たので、此れから CO₂ や水循環の計測に使えるかも知れないと考え、GCOM などの計画を進めている。これ等の計画はデータの継続性を最重点に置いているので、何等反対する理由は無い。青江委員は自ら苦勞して報告書を纏めたので付き合っているが、傍聴者含め多くはあきれ果てて反論しない様であった。

¹¹ 「思う」だけに留まらず、先ず読まなければ発言権は無い。

してくかって事を考えなきゃいけない。ですから従来の様なやり方とは違うやり方になって来るんじゃないかと云う事を申し上げた。

青江: もう一つ。此処にもリファーマしてますけどネエ。ソウチケイツ(?)についてですネ、基本戦略を作ってます。其の上にネエ、ご案内だと思いますが、こんな膨大な部会報告書があってね、此れを全部衛星の部分に引っ張り出して、其れで以て衛星計画と云うのを作ってますよ。そうすつと此処、あの時に正に日本の其の2年、もう4年位になりますかネエ、4年前の日本の地球関係の所謂気象関係の研究者が非常に多く、殆ど集約された形ですネ、何が要るか云うですネ、まあ言ってみりゃあニーズの方ですネ、其れは集約した訳ですよ、其処へ。其れに全部対応した訳ですよ。今の宇宙開発委員会の所謂衛星計画は。だから、此処の脈絡って言いましょうかネ、此処を、此処がもう、どう言いましょうか、時代遅れって云うかネ、時代が変わったんだと言って此処のニーズの方を変えようと言う訳？

池上: え、え、いや、変える事になるかも知れませんネ。

青江: いや、其れは、其処が変わるんなら変わるんです。

池上: いや変えます。それ、100%変わります。例えば IPCC のデータもですネ、2千頁位に亙ってますけどネ、世界中のデータを集めて、我々が、少なくとも2年前に気が使った様な事が出て来てる訳ですよ、

青江: いや、だから、其方が変わらないと、

池上: だから技術開発と云う点からすると、もう一寸、良いですもう。

ふいふいふ。多分ネ、僕、否定してる訳じゃない¹²んですよ。

森尾: 今の議論ネ、全く無関係では無いと思うんですがネ、私は此れ、あの、此処のプロジェクトさっき青江さんが仰った様にネ、夫々中間評価やったり、やってますネ。進捗状況。恐らく十分だと思んですが、以前から気になってたのは、其のデータ統合解析システム、まあさっき、一寸システム・オブ・システムズって、其れは今どこが具体的にどう云うものを作ろうとしてて、其れが出来るとどう云う風な活用の仕方が出来るのかって云うネ、そう云う、何となく私には理解できてないって云う。其れはどうなってるんですか。例えば災害監視衛星が出すデータとか、環境観測衛星が出すデータと云う、色んなもののデータを統合的に活用しようって此処に書いて有るけど、活用するための仕組みですネ、其れは何処かで何かやってますかネ。

青江: 今仰られた、狭い意味じゃあ、データ統合・利用って云う事ですネ。

誰か: 何処の事を仰っておられるんでしょうか。

青江: 此れは誰が一番、あの、

田中審議官: この、元々の大物ですネ、海洋地球観測探査システムの中では、此の衛星から出て来るデータとあとまあ、JAMSTECの方で色々収集してる、そう云うのも一応合わせてですネ、まあ東大の方に今そう云うのを全体を解析する

¹² 少しでも報告書に目を通し、根拠を持って議論すれば、此の10分余りの無駄な議論は無かった。否定しないがイチャモンを付けただけなのか。

様な大きな、その、情報をストックするようなシステムを今作りつつあると云う状況で御座います。

森尾:あの、其処の進行状況のチェックって云うのは我々宇宙開発委員会の仕事では無い?

田中審議官:はい、あのー、一応此の母体は、海洋地球観測探査システムは、宇宙の部分については宇宙委員会にお願いする、一方、JAMSTEC 何かやって様な部分については、また海洋ザイグ(?)審議会の別の委員会でやって居りまして、全体としては上にありますが、推進本部と云うのがまあ文科省の中に置かれて居りますけど、其処の中で全体併せて全体の評価としてやろうと云う事になって居ります。

松尾委員長:強いて言えば、其の点についてはプロバイダと云う立場なんですネ。

田中審議官:此方の宇宙委員会がと云う意味ですネ。そうですネ、はい。

池上:あ、チョッチョッチョとネ、今で言いますとね、JAMSTEC のホームページ見ると結構いろいろ面白い事がある。で、特に私はあのアゴラフロートって云うのがあって、2000メートル位海の中へ沈めて行きましてね、で、塩分と温度を測る、で、浮き上がる。で、其処の浮き上がった時に何処に浮き上がるか分からないんですが、GPS と衛星で以て補足しましてネ、其れをアレ、送ってるんでしょ。

田中審議官:はい。

池上:で、色々処理をして、で、地球シミュレータを使って色々やってるんですよネ。其処でも衛星って上手く使われてるん

ですヨ。だから、結構衛星の役割ってのは重要なんですネ。

田中審議官:其れは勿論其の通りだと。はい。

松尾委員長:一寸、先程の、あれだけの論争を此の儘にしちゃう訳にも行きませんので。

青江:余り実りが無いと云う事で、やっぱりオナゴリ(?)と言っても違う、

松尾委員長:まあ、あのネ、まあ常時ネ、

池上:まあ、アルカノ(?)事しか考えていないですから、へっへ。

松尾委員長:常時ネ、ウン、常時色々変化に対応しなきゃいけませんけど、今の処、だからその、ユーザ・コミュニティの結論に遡って言うのかどうかと云う事も含めて、まあ一寸、懇談レベルですナ、やってみましょうか、此処でやっても埒明かないとこですから。

池上:いや、方針を出すのは良いんですよ。ただネ、インプレメンテーションが重要なんですよ。で、日本の場合は中々其処、あの、現場に責任があるんだけど、具体的に動くと云う事については、一寸、中々動き難いなって云う事を実際に現場に居た立場を、経験した立場と云うか、正直申し上げました。

松尾委員長:何か話の本質は、どうもギリギリやって行きますと、一寸青江さんが言った様に、ユーザ・コミュニティから出て来た結論に遡って、其処に我々が注意喚起するのかわからないのかって云う話に、僕はなるんだと思いますけどもね。で、我々は其れだけの事実を持って言ってるのかって云う様な

話になる。あの、常時、まあその、常時変化に対応して行くってのはこれはまあ当然の話、出来る範囲でやってくと云う事だと思いますけど、今が其の時期なのかどうか含めて、まあ一寸。

池上：済みません、もう一寸正確に言うと、世の中、科学技術にしてもですネ、今の地球環境問題、CO₂の例の排気の色んな話にしても、まあ世の中全体が動いてる訳ですよネ。ですから或る意味でユーザ・サイドは動いてるんですよ、カスタマ・サイドは、で、其れに対して我々が何が出来るかって云う事を、寧ろ我々の方からもう一寸提案してく必要が有るだろうと。つまり彼らがですネ、衛星をどう使ったら良いかって云う事についてはネエ、必ずしもネエ、僕は十分理解されてないんじゃないかと、そう云う事なんです。ですから、世の中なり何なりが変化するって云う事は、我々の或る意味じゃあカスタマの方がドンドンドン変化して、或いはカスタマを取り巻く環境が変化してきている。で、其れに対して衛星を使う事によって何が出来るかって云う事を我々が逆に提案して行って、で、やる必要が有るんじゃないかって云うのが私のネ。

松尾委員長：ウン、まあその一、

池上：当たり前っちゃ、当たり前なんですけどネ。

松尾委員長：4年前に何か出された以上、カスタマは衛星どう使えるか分かってた訳ですネ。

池上：いや、僕はネ、必ずしもネ、分かってないと。

松尾委員長：其の時には、

池上：例えば、ツキジテスト(?)エクステンションの問題、要するにアイテア(?)の、もう色んな問題が有る訳ですよネ。僕は、未だ衛星ってのは色々ポテンシャルが高いつて云う風に思ってるんですよ。で、過去に此れ決めたから此れしかやらないよって云う言い方でなくて、もう一寸積極的にこう、世の中の動きに対応した、カスタマなり何なりの処に近寄って、で、一体になって色々議論して、で、衛星の使い方について、まあ或る意味じゃお互いに、方向決めて行こう¹³と。向うの。

松尾委員長：ウン、ハンノオクシャッテモ(?)反対のしょうも無いご意見だと思うんですが、実際どう云う形でアプローチして行きますかネエ。此処の処が。

池上：あ、其れはあの、例えば、色々あの、国研についてもですネ、産総研もあるし、ジョウブリツ(?)的なものもあるし、だから夫々バラバラで今迄やってる訳ですネ。気象庁は気象庁でやってる訳ですから。多分其れを、そう云った関係してる人間が集まってもう一度、あの、もっと積極的に具体的

¹³ 正に其れをやって来たのに、何故頑なに否定し続けるのか。本人は否定では無いと言うが、ほんの2~4年前の検討を見直せと言ってはいる。1か月で納車される自動車も、設計着手から商品発売まで1年以上掛る。量産体制の通信衛星が1~2年で打ち上げられるのだからと言って、新規開発の衛星に其れを期待するのは間違っている事を早く気付き、宇宙の新企画が10年規模で進められる事を早く考慮して頂きたい。其れ迄は不毛の議論になってしまう。

に議論するって云う事ではないかと思うんです。例えば農水省も一応衛星については関心を持ってる。で、今回言ってるのは、地球全体の問題ですから、あの、或る意味ではあらゆる省庁が、それこそシステム・オブ・システムズですからネ、で、其れをもう一寸積極的に、宇宙サイド、宇宙サービスサイドって云うんですかね、宇宙開発サイドからアプローチしてくと云う事が具体的な方策だって云う事です。其れを具体的に展開の仕方ありますからネ、幾らでも。幾らで以て言うか、其れはもう世界が動いてるから、或る程度其れについてくって事になるかも知れませんけれども。

松尾委員長:ウン、未だ具体的なイメージが出て来ないけども、まあ、一寸、別途議論させて頂きましようか、此の件。

池上:ですから、過去決めた事が悪いって云う事を言ってるのは無いんです。

松尾委員長:いやいや、其れは誰もそう云われてると思ってないんで。

池上:言うなれば、全部かかれと云う宇宙、何か全部貰えてると云うのも多分違うんじゃないかって思うんですネ。別にその、宇宙開発委員会の過去が間違ってるとか、正しいと云う事を言う気は、あんまり関心無いですから私は、ヘッへ。

青江:CSTP を信用するかどうかと云う事なのかも知れませんね。

池上:ですからネ、そう云う言い方は僕はネ、気に入らないですヨ。どっかの上の何とかブンプ(?)が悪いとかですネ、「どっかの省庁が悪いと云うのは、

青江:いえいえいえ、あそこでチャンと其れは為されて、やられて居ると。

池上:あの、そう云う風に、霞が関の皆さん、そう皆仰います。¹⁴私も霞が関のメンバーであります。

松尾委員長:まあ、少し、少し不毛の領域に入っちゃって、此れで宜しゅう御座いますネ、此の見解、案を取って。良いですネ、池上さん良いですネ。森尾さん宜しいですネ。はい、じゃあ此れ決定と致します。どうも有り難う御座います。皆さん続きを聞きたいと思いますが(以下略)

¹⁴ 其れだけが根拠なのか。CSTP を信用するかとの議論の前に、青江委員(委員歴、年齢共に先輩?)を信頼するかとの議論が有りそうである。